

「分子標的薬による甲状腺機能低下症の発現状況 および甲状腺機能検査の実施状況」について

○研究の目的

添付文書に甲状腺機能検査を実施するよう記載のある分子標的薬(スニチニブ、アキシチニブ、パゾパニブ、レゴラフェニブ、ニボルマブ)を対象とし、これらを使用した患者において、甲状腺機能検査の実施状況と甲状腺機能異常の発現率を明らかにする。

○研究の方法

2008年7月1日から2015年1月31日までに、広島大学病院でスニチニブ、アキシチニブ、パゾパニブ、レゴラフェニブ、ニボルマブを使用した患者を対象とします。

本研究は全て診療録(カルテ)情報を転記して行います。

カルテから転記する内容は、年齢、性別、疾患名、処方薬剤、採血データ(T3, T4, TSH 値)です。(個人が特定出来る情報は転記しません)

(研究期間 承認後～平成27年11月30日)

○個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせ下さい。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることは有りません。

.....
お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel:082-257-5579

広島大学

松尾 裕彰(研究責任者)

村瀬 哲也(担当者)